

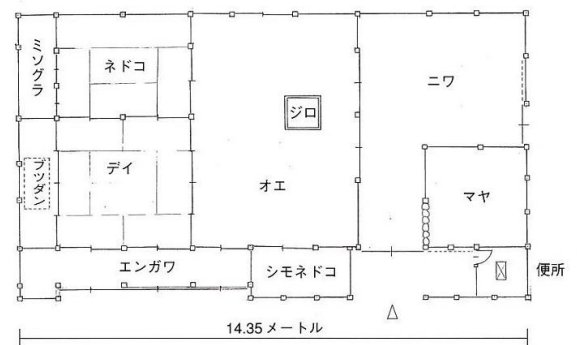
# はくさんろくにしたに じんせいぎれいようぐ みにんか 白山麓西谷の人生儀礼用具及び民家（民家）

種 別 重要文化財 有形民俗文化財  
指定年月日 昭和59年5月22日  
所 在 地 吉竹町（憩いの森内）

白山麓西谷とは、大日川沿いの山間地域で、小松市域の旧新丸村〔新保・須納谷（花立）・丸山・小原・杖（津江）〕と旧鳥越村の一部がその地域にあたる。深い谷間に所在し、他地域の影響を受けず、特有の古風な文化・慣習が伝わっていた。

民家は江戸時代末期に建てられたとみられる。鳥越村相滝にあった住宅を明治初期に同村渡津に移築し、中村家の住宅として使用されていたが、昭和58年に解体し現在地へ移転復元したものである。

この民家は、雪深い西谷における社会生活や、人生儀礼の一面をうかがわせる特徴を持っている。入口脇のマヤ（馬屋）にはアマ（二階）が作られ、家から急な死人が出た際に使う棺用の板材（ヨウガイイタ）などの葬送用具が、老人達の目に付かないよう奥に収納されていた。また家長夫婦の寝室であるネドコにもアマがあり、冬期に使う機織り用具が収納されていた。またネドコに隣接してミゾグラと呼ばれる小部屋があり、穀物や味噌が保管されていた。ここは主婦権を持ったものが管理する空間であり、他の者の飯米への管理を許さなかった西谷の習俗が表れている。シモネドコは、子供が嫁を迎える時期になると増設される空間である。一般的には老夫婦が使用したが、出産の時にも使用された。また屋根最上部の両端には、ヒダチ（明り窓）があり、積雪の多い冬期には、ここが出入り口としても使われた。



↑ 民家間取図

← 民家外観